



## 平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年1月31日

上場会社名 日本航空株式会社

上場取引所 東

コード番号 9201 URL <http://www.jal.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 植木 義晴

問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 木藤 祐一郎

TEL 03-5460-3068

四半期報告書提出予定日 平成30年2月1日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	1,046,054	7.2	145,233	5.8	142,197	4.5	114,125	5.4
29年3月期第3四半期	975,488	4.7	137,311	19.2	136,067	20.2	108,282	24.6

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 136,520百万円 (8.5%) 29年3月期第3四半期 149,163百万円 (10.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	322.83	
29年3月期第3四半期	299.74	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	1,798,849	1,085,054	58.5	2,976.06
29年3月期	1,728,777	1,003,393	56.2	2,749.71

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 1,052,085百万円 29年3月期 972,064百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期				94.00	94.00
30年3月期		52.50			
30年3月期(予想)				52.50	105.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,366,000	6.0	166,000	2.5	158,000	4.2	121,000	26.3	342.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	353,715,800 株	29年3月期	353,715,800 株
期末自己株式数	30年3月期3Q	199,873 株	29年3月期	199,873 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	353,515,927 株	29年3月期3Q	361,252,833 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は平成30年1月31日に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。  
この説明会で配布する決算説明資料については、同日、当社ホ - ムペ - ジに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書 .....	8
(3) <要約>四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	10
(重要な後発事象) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期における営業収益は1兆460億円（前年同期比7.2%増加）、営業費用は9,008億円（前年同期比7.5%増加）となり、営業利益は1,452億円（前年同期比5.8%増加）、経常利益は1,421億円（前年同期比4.5%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,141億円（前年同期比5.4%増加）となりました。

連結業績は次のとおりです。

項目	前第3四半期 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	対前年同期比 (利益率は ポイント差)
営業収益 (億円)	9,754	10,460	107.2%
国際旅客収入 (億円)	3,144	3,464	110.2%
国内旅客収入 (億円)	3,808	3,985	104.6%
貨物郵便収入 (億円)	585	692	118.2%
その他収入 (億円)	2,216	2,318	104.6%
営業費用 (億円)	8,381	9,008	107.5%
燃油費 (億円)	1,478	1,579	106.8%
燃油費以外 (億円)	6,903	7,428	107.6%
営業利益 (億円)	1,373	1,452	105.8%
売上高営業利益率 (%)	14.1	13.9	△0.2
経常利益 (億円)	1,360	1,421	104.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (億円)	1,082	1,141	105.4%

(注) 金額については切捨処理、比率については四捨五入処理しております。

セグメントの業績は、次のとおりです。

## &lt;航空運送事業セグメント&gt;

当第3四半期における航空運送事業セグメントの業績については、営業収益は9,505億円（前年同期比8.4%増加）、営業利益は1,343億円（前年同期比8.5%増加）となりました。（営業収益及び営業利益はセグメント間連結消去前数値です。）

詳細は次のとおりです。

## (国際線)

国際線旅客においては、堅調な日本発の需要に加え、海外発の需要が好調に推移した結果、前年を超える利用率となりました。

路線運営面では、平成29年9月に開設した成田＝メルボルン線、成田＝コナ線に加え、平成29年10月29日より羽田＝ロンドン線を増便、成田＝バンコク線を期間増便し、ネットワークの拡充を図って参りました。

営業・サービス面では、外部のサービス評価機関（JCSI）によって国際航空部門「ロイヤルティ（再利用意向）」が5年連続で第1位の評価をいただいたことに加え、「顧客満足」についても第1位に返り咲きました。また、米ビジネストラベル誌「グローバルトラベラー」より、「ベスト トランス - パシフィックエアライン2017」および「ベストエアライン - Japan2017」を受賞いたしました。中でも「ベスト トランス - パシフィックエアライン」は、もっとも優れた太平洋路線就航のエアラインに贈られるもので、日本のエアラインでは初めての受賞となります。

商品面では、今年度より、新たな客室仕様である「JAL SKY SUITE 787 (JAL スカイスイート787)」が加わり、成田＝クアラルンプール線、成田＝大連線、成田＝デリー線で運航を開始しており、ご好評をいただいております。

以上の結果、当第3四半期の国際線供給は有効座席キロベースで前年同期比1.6%の増加、国際旅客収入は3,464億円（前年同期比10.2%増加）となりました。

## (国内線)

路線運営面では、伊丹発着路線を中心にエンブラエル190型機の運航路線を拡大したことに加え、日本エアコミューターが運航する鹿児島県内の離島路線には、最新鋭のターボプロップ機であるATR42-600型機による運航路線を拡大し、地方ネットワーク路線の利便性・快適性の向上に努めています。また旺盛な需要の見込まれる年末年始期間において、羽田＝那覇線などの増便を実施し、お客さまのさらなる利便性向上を図りました。

商品面では、「JAL SKY NEXT」運航便にてご利用いただける無料の「機内Wi-Fiサービス」により、多くのお客さまからご好評いただいております。また日本トランスオーシャン航空が運航する737-800型機においても、「JAL SKY NEXT」の導入を進め、利便性・快適性の向上に努めています。

平成19年12月の導入から10年を迎えた国内線「JALファーストクラス」については、期間限定にて機内食のスペシャルメニューをご用意するなどの特別企画を展開し、より価値の高い空の旅の創造に向け、サービス品質の向上に取り組みしました。

営業面では、海外から日本各地へのさらなる訪日旅行需要喚起を目的として、TripAdvisor, Inc.（トリップアドバイザー）との協業により、日本の知られざる魅力を発信する特集サイト「Untold Stories of Japan（知られざる日本）」を新たに開設しました。特集サイトは、世界に強力な情報発信力を持つトリップアドバイザーのウェブサイト上に展開し、日本各地の様々な観光施設やアクティビティ情報を発信すると共に、訪日旅行者向け国内線運賃「JAL Japan Explorer Pass」の提供を行い、海外からより多くのお客さまが日本の各地を訪れる機会を創出しています。

また新たな観光流動の創出を目的として、北海道旅客鉄道株式会社との協業により、首都圏から北海道内を周遊する航空・鉄道の一体型商品の販売を開始したことに加え、東日本旅客鉄道株式会社との協業においては、東北・九州間で航空と鉄道を組み合わせて利用する周遊型旅行商品を拡充するなど、複数の交通モードを融合した新たな旅の価値を提供し、地域間の交流促進・地域活性化に努めています。

以上の結果、当第3四半期の国内線供給は有効座席キロベースで前年同期比0.6%の増加、国内旅客収入は3,985億円（前年同期比4.6%増加）となりました。

連結輸送実績は次のとおりです。

項目	前第3四半期 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	対前年同期比 (利用率は ポイント差)
<b>国際線</b>			
有償旅客数 (人)	6,279,825	6,373,871	101.5%
有償旅客キロ (千人・キロ)	30,508,305	31,375,124	102.8%
有効座席キロ (千席・キロ)	38,203,734	38,815,406	101.6%
有償座席利用率 (%)	79.9	80.8	1.0
有償貨物トン・キロ (千トン・キロ)	1,407,431	1,681,333	119.5%
郵便トン・キロ (千トン・キロ)	179,694	195,582	108.8%
<b>国内線</b>			
有償旅客数 (人)	24,623,199	25,919,577	105.3%
有償旅客キロ (千人・キロ)	18,525,115	19,501,809	105.3%
有効座席キロ (千席・キロ)	26,744,750	26,909,371	100.6%
有償座席利用率 (%)	69.3	72.5	3.2
有償貨物トン・キロ (千トン・キロ)	272,726	281,374	103.2%
郵便トン・キロ (千トン・キロ)	19,925	18,619	93.4%
<b>合計</b>			
有償旅客数 (人)	30,903,024	32,293,448	104.5%
有償旅客キロ (千人・キロ)	49,033,420	50,876,933	103.8%
有効座席キロ (千席・キロ)	64,948,485	65,724,777	101.2%
有償座席利用率 (%)	75.5	77.4	1.9
有償貨物トン・キロ (千トン・キロ)	1,680,157	1,962,707	116.8%
郵便トン・キロ (千トン・キロ)	199,620	214,201	107.3%

- (注) 1. 旅客キロは、各区間有効旅客数(人)に当該区間距離(キロ)を乗じたものであり、座席キロは、各区間有効座席数(席)に当該区間距離(キロ)を乗じたものです。輸送量(トン・キロ)は、各区間輸送量(トン)に当該区間距離(キロ)を乗じたものです。
2. 区間距離は、IATA(国際航空運送協会)、ICAO(国際民間航空機構)の統計資料に準じた算出基準の大圏距離方式で算出しております。
3. 国際線：日本航空(株)  
国内線：日本航空(株)、日本トランスオーシャン航空(株)、日本エアコミューター(株)、(株)ジェイエア、琉球エアコミューター(株)、(株)北海道エアシステム
4. 数字については切捨処理、比率については四捨五入処理しております。

（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年10月31日付「平成30年3月期 第2四半期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	392,075	364,892
受取手形及び営業未収入金	142,745	141,515
有価証券	12,000	21,999
貯蔵品	21,118	21,660
その他	58,886	71,576
貸倒引当金	△493	△496
流動資産合計	626,332	621,147
固定資産		
有形固定資産		
航空機（純額）	671,387	732,100
その他（純額）	153,540	158,045
有形固定資産合計	824,928	890,146
無形固定資産	95,913	97,226
投資その他の資産	181,602	190,328
固定資産合計	1,102,444	1,177,701
資産合計	1,728,777	1,798,849

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	159,218	167,473
短期借入金	5,372	3,058
1年内返済予定の長期借入金	13,037	11,093
リース債務	5,712	3,505
割賦未払金	181	184
その他	181,078	181,792
流動負債合計	364,601	367,106
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	65,802	62,583
リース債務	5,300	4,171
長期割賦未払金	666	527
引当金	5,965	6,083
退職給付に係る負債	238,481	231,805
その他	24,568	21,517
固定負債合計	360,783	346,688
負債合計	725,384	713,795
純資産の部		
株主資本		
資本金	181,352	181,352
資本剰余金	183,047	183,047
利益剰余金	647,701	710,036
自己株式	△531	△531
株主資本合計	1,011,569	1,073,904
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,828	17,895
繰延ヘッジ損益	△667	8,859
為替換算調整勘定	232	214
退職給付に係る調整累計額	△52,898	△48,787
その他の包括利益累計額合計	△39,504	△21,818
非支配株主持分	31,328	32,968
純資産合計	1,003,393	1,085,054
負債純資産合計	1,728,777	1,798,849

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
営業収益	975,488	1,046,054
事業費	695,659	743,874
営業総利益	279,828	302,180
販売費及び一般管理費	142,517	156,946
営業利益	137,311	145,233
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,606	2,011
持分法による投資利益	2,424	2,406
為替差益	1,739	—
その他	2,302	2,068
営業外収益合計	8,073	6,486
営業外費用		
支払利息	604	605
航空機材処分損	5,077	6,449
その他	3,635	2,467
営業外費用合計	9,317	9,522
経常利益	136,067	142,197
特別利益		
投資有価証券売却益	—	829
独禁法関連引当金戻入額	185	—
その他	139	268
特別利益合計	324	1,097
特別損失		
減損損失	505	1,034
固定資産処分損	241	418
支払補償金	1,285	—
その他	25	128
特別損失合計	2,056	1,581
税金等調整前四半期純利益	134,335	141,713
法人税等	20,896	22,830
四半期純利益	113,439	118,883
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	108,282	114,125
非支配株主に帰属する四半期純利益	5,156	4,758
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	704	3,937
繰延ヘッジ損益	30,562	9,347
為替換算調整勘定	△789	△102
退職給付に係る調整額	4,775	4,125
持分法適用会社に対する持分相当額	470	329
その他の包括利益合計	35,724	17,637
四半期包括利益	149,163	136,520
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	144,198	131,811
非支配株主に係る四半期包括利益	4,965	4,709

## (3) &lt;要約&gt;四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー (※1)	181,030	204,270
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△101,519	△143,639
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△63,497	△66,232
IV. 現金及び現金同等物の四半期末残高	109,654	119,042
※1 うち、減価償却費	70,923	80,760

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
現金及び預金勘定	355,634百万円	364,892百万円
有価証券勘定	17,000	21,999
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△250,979	△267,849
償還期限が3ヶ月を超える有価証券	△12,000	—
現金及び現金同等物	109,654	119,042

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告 セグメント	その他 (注) 1	計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益及び 包括利益計算書 計上額 (注) 3
	航空運送 事業				
売上高					
① 外部顧客への売上高	789,700	185,787	975,488	—	975,488
② セグメント間の内部売上 高又は振替高	87,522	21,946	109,469	△109,469	—
計	877,223	207,734	1,084,957	△109,469	975,488
セグメント利益	123,809	13,747	137,556	△245	137,311

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれないセグメントであり、旅行企画販売事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去です。

3. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告 セグメント	その他 (注) 1	計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益及び 包括利益計算書 計上額 (注) 3
	航空運送 事業				
売上高					
① 外部顧客への売上高	860,687	185,367	1,046,054	—	1,046,054
② セグメント間の内部売上 高又は振替高	89,875	23,772	113,648	△113,648	—
計	950,563	209,139	1,159,702	△113,648	1,046,054
セグメント利益	134,305	10,989	145,294	△61	145,233

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれないセグメントであり、旅行企画販売事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去です。

3. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。